

学びを支える図書館

～アクティブラーニングの視点から～

1 発表の要旨

『スマートフォンと図書館』

発表者 東信高等学校図書館協議会司書研究会
宮坂夕香司書（東御清翔高校）
山浦陽子司書（小諸商業高校）

東信高等学校図書館協議会司書部会では、平成27年度より「スマートフォンと図書館」というテーマで研究を行った。学校図書館の利用者である生徒は、スマートフォンをなにに使っているのかを調査し、スマートフォンと図書館との共存共栄に向けた取り組みについて研究を進めた。

生徒へのアンケート結果から分かったのは、①スマートフォン使用の目的としては、コミュニケーションツールのLINE、ゲーム、動画、音楽が多いこと ②スマートフォンの使用時間については、一日3時間以上の利用が37%あり、長時間の使用がうかがえること等であった。



司書研究会では、生徒からのアンケート結果を踏まえ、「スマートフォンと図書館の共存」を図るために図書館側から何かできないか、4つのテーマを設け、ワークショップを行った。4つのテーマは①情報発信②図書館サービスの提供③既存のシステムの活用④スマートフォンの学習活用である。

テーマ別に行われたグループワークの中で、

様々な案が出された。学校のHPに図書館専用ページを設けることはすでに導入されている学校もある。LINEを使ったジャンル別本好きのグループラインや、LINE NEWSで図書館の情報発信をする、Instagramで今日の図書館の様子をリアルタイムで提供するなど、「情報機器」を使った図書館運営が、近い将来、実現しそうである。

進化を続けていくスマートフォンを図書館とどのようにつなげていくか、司書だけではなく、学校、行政を巻き込んでの取り組みが今後必要になると考えられる。

『「信州学」への取り組み』

発表者 中谷幸裕教諭
土屋久子司書（松本県ヶ丘高校）

松本県ヶ丘高校では、平成28年度より「信州学」が導入され、1学年全体で探究学習に取り組んだ。

本校では、信州学を単に「信州について」だけではなく、広い視点で「信州」をとらえ、生徒個々に自分たちの住む地域から県全体、そして世界へと、ローカルからグローバルへの視点を持たせて、1年間の取り組みを行った。



学校図書館としては、9月に課題設定のために必要な情報の収集方法の講義を行った。また、テーマ発表会后に、各生徒のテーマをデータ化し、

学校司書・図書館係で、約 320 名分のテーマを分類し、その分野にあった資料を収集し、「信州学コーナー」を図書館内に設置した。

10 月末には、松本市中央図書館の休館日を特別に開放していただき、「信州学ガイダンス」を行った。本校の職員だけではなく、中央図書館、県立図書館、松本城管理事務所、松本市都市デザインアドバイザーさんなどの協力を得て、生徒の探究学習への援助を個別に行い、有意義な時間となった。

一連の取り組みを通して、探究学習では学校図書館が非常に大きな役割を果たし得ることを実感した。今後は、学校司書・司書教諭と探究担当教諭が協働して探究学習を展開するプログラム作成が急務と考えている。また、探究学習を育む情報リテラシー教育を、探究担当教諭と学校図書館が連携することも重要である。



次期学習指導要領では、探究学習が重視され、より一層学校図書館の役割が大きくなることが予想される。今後も継続して活動を行っていく。

2 協議内容

『スマートフォンと図書館』

(長野県 長野工業高 塩澤) 学校図書館がスマートフォンと共存していくのか、住み分けしていくのか、両方の考え方があと思うが。



(発表者) 線引きの必要な学校もあれば、学習活動に使っている学校もある。タブレット学習も始まっている中、情報を選び取る能力も必要になっている。本研究の中では、スマートフォンを使ってどう情報発信していくかに重点を置いた。

『「信州学」への取り組み』

(富山県 高岡高校 西野) 他教科との連携はなされているのか？

(発表者) 1 時間の授業の中で考察しているため、あまりできていない。他の先生のところにまで相談に行っているのかは分からない。

(西野) 本県でも、「～学」をやれと言われている。「信州学」に先行研究はあるのか？

(発表者) 学問としてあるわけではない。生徒の興味によって、様々なテーマが出てくる。こちらからある程度テーマを提示したほうがよいのか、模索している。

(新潟県 新潟高校 押木) アンケートの取り方や統計の処理の指導はしているのか？

(発表者) あまり手を入れていない。データの母数の必要数などまでは、考えられていない。ただ、自分の考えが、クラスではどうか、学年ではどうなのかを確かめる手段として使った。

(長野県 昭和小学校 倉田) 小学生でも、バーチャルの世界には詳しいが、現実の体験を家庭でやらない子どもが増えている。高校生はどうなのか？



(発表者) 生徒にはなるべく実体験をさせるようにした。データとの違いを、町に出て、インタビュー等を通して実感できた生徒もいる。ただ、外に出て、アクティブに動ける生徒は限られているように思う。